

令和 7 年度宇部市地域包括支援
センター事業実施状況
(令和 7 年 1 1 月末時点)

基本指標一覧

〔評価〕

評価	評価基準
○	市の示した指標を全て達成、もしくは達成見込み
△	市の示した指標が、何らかの理由により一部未達成
×	市の示した指標が、全て未達成

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実施

- ・高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。
- ・身近な地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。
- ・高齢者の身の回りにあるあらゆる資源を活用・提案し、自分らしい活動的な生活を継続できるマネジメントを行う。

基本指標

	指 標			
	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等_大衆アプローチによる介護予防）	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	評価
センター名	各地区6回以上/年	各地区10回以上/年	3回/年	
東部第1	東岐波：4回 川上：28回	東岐波：10回 川上：16回	2回	○
東部第2	常盤：32回 西岐波：38回	常盤：32回 西岐波：38回	1回	○
西部第1	西宇部：8回 厚南：11回	西宇部：13回 厚南：5回	2回	○
西部第2	黒石：1回 原：2回 両地区：34回	黒石：64回 原：39回	2回	○
中部第1	上宇部：4回 小羽山：3回	上宇部：7回 小羽山：3回	3回	○
中部第2	新川：4回 鶉の島：5回 藤山：5回	新川：7回 鶉の島：4回 藤山：4回	2回	○
北部東	厚東：6回 二俣瀬：6回 小野：6回	厚東：6回 二俣瀬：10回 小野：10回	2回	○
北部西	吉部：7回 万倉：9回 船木：13回	吉部：7回 万倉：22回 船木：38回	2回	○
南部第1	恩田：8回 岬：14回	恩田：31回 岬：3回	0回	○
南部第2	見初：11回 神原：15回 琴芝：14回	見初：24回 神原：50回 琴芝：57回	4回	○

中間評価	<ul style="list-style-type: none">・健康教室・健康相談・出前講座・チラシ等により介護予防・認知症予防に関する知識や技術の普及・啓発を行えている。・地域サロンや地域行事等へ参加し、地区担当保健師等地域の支援者と連携して、高齢者の健康課題の把握につなげている。・「自立支援型地域ケア会議」は、地域資源の把握・活用と新たな資源の開発への意識を持って開催している。地域の支援者と地域資源について意見交換を継続。新たな地域サロンの立ち上げ等新たな地域資源の誕生にも関与できている。
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none">・支援者間で連携し、健康づくりや介護予防に取り組める地域資源の開発が必要。・高齢者が自分らしい生活を継続できるようなマネジメントが必要。・効果的な自立支援型地域ケア会議の運営・推進
----	--

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

- ・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（相談窓口の周知・認知症カフェの開設、開催支援等）
- ・認知症サポーターの養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。
- ・地域の特性を鑑み、認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。

基本指標

		指 標		
	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。 （認知症カフェの開設・開催支援）	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	評価
センター名	4回以上／年	50人以上参加／年	各地区3件／年	
東部第1	4回	57人	東岐波：7件 川上：1件	○
東部第2	3回	433人	常盤：1件 西岐波：1件	○
西部第1	6回	168人	西宇部：3件 厚南：1件	○
西部第2	8回	168人	黒石：2件 原：3件 両地区：11件	◎
中部第1	4回	250人	上宇部：2件 小羽山：1件	△
中部第2	4回	36人 (市主催51人)⇒実施協力。	新川：1件 鵜の島：1件 藤山：1件	○
北部東	認知症カフェ：4回 開催支援：3回	43人	4件（圏域）	△
北部西	6回	5人	吉部：3件 万倉：3件 船木：4件	○
南部第1	13回	42人	恩田：1件 岬：1件	○
南部第2	2回	152人	見初：2件 琴芝：3件	△

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校や地域で認知症サポーター養成講座等を積極的に開催し、認知症の正しい理解を促進している。 ・プラチナサポーターとの協働による活動や、地域の支援者との協力体制が構築され、各地区の特色に合わせたチームオレンジの活動につながっている。プラチナサポーターによる企画・実施や関連映画上映会、地域独自の認知症学習会と、これまでなかったアプローチにより、活動の広がりにつながっている。
------	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域に加え、職域や学校等にも積極的にアプローチし、幅広い年齢層に対して、認知症になってからも希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」に基づく理解促進に取り組むことが必要。 ・認知症当事者や家族の方の活動への参加促進、取り組みへの意見反映
----	---

3 地域支援体制の強化

- ・地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い包括ケアシステム」をさらに進め、分野横断的に連携して相談対応ができる体制づくりを行い、ネットワークの拡大強化を図る。
- ・民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行う。
- ・生活支援コーディネーターや住民等と協働で地区単位での支え合い会議を開催し、地域課題の把握や解決に向けた協議を行う。

基本指標

		指 標		評価
センター名	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う（地域の会議・支え合い会議・行事に参加）		
	3回以上／年	各地区3回以上／年		
東部第1	2回	東岐波：4回 川上：1回		○
東部第2	2回	常盤：10回 西岐波：2回		○
西部第1	3回	西宇部：5回 厚南：3回		○
西部第2	2回	黒石：7回 原：3回		○
中部第1	3回	上宇部：4回 小羽山：4回		○
中部第2	2回	新川：4回 鵜の島：4回 藤山：1回		○
北部東	2回	厚東：3回 二俣瀬：3回 小野：3回		○
北部西	3回	吉部：2回 万倉：4回 船木：9回		○
南部第1	4回	恩田：5回 岬：1回		△
南部第2	2回	見初：17回 神原：9回 琴芝：16回		○

中間評価	地区の支え合い会議への積極的な参加や、地域・関係機関との連携や情報共有を行い、相談対応ができる体制づくりを行っている。
------	---

課題	地域で発生した個別の問題に対して、その発生要因を分析した上で地域課題を設定し解決策を検討していく必要がある。
----	--

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

- ・複合化・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的な支援を行う。
- ・地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。

基本指標

	指 標		参 考		評 価
	①アウトリーチを実施した実機関数	②アウトリーチにより把握した実相談件数	総合相談受付件数		
センター名	30機関／年	15件／年	実	のべ	
東部第1	20機関	11件	335	1004	○
東部第2	48機関	29件	391	558	○
西部第1	33機関	8件	124	265	○
西部第2	25機関	18件	246	452	○
中部第1	30機関	15件	400	1,104	○
中部第2	48機関	49件	185	423	○
北部東	58機関	16件	169	483	○
北部西	39機関	22件	66	253	○
南部第1	36機関	24件	276	442	○
南部第2	23機関	14件	164	350	○

中間評価	集いの場や地区コミュニティ関係者、地域の商店や事業所等、様々な関係機関と繋がり、支援が届いていない人の把握に努めている。積極的なアウトリーチにより相談件数も増加傾向にあり、窓口の周知啓発にもつながっている。
------	---

課題	複合的課題を抱えるケースが増えており、既存の枠組みでは対応できない新たなニーズに対し、関係機関等と連携、協働しながら支援を行う必要がある。
----	---

5 社会参加に向けた支援

- ・社会的孤立等の課題を抱える人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるよう支援する。
- ・課題解決にあたっては、宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。

基本指標

	指 標			評価
	①社会参加に向け連携した実機関数	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	
センター名	15件／年	5件／年	2件／年	
東部第1	14件	5件	1件	○
東部第2	20件	8件	8件	○
西部第1	11件	5件	2件	△
西部第2	15件	3件	2件	○
中部第1	11件	2件	2件	△
中部第2	40件	13件	3件	○
北部東	15件	9件	5件	○
北部西	18件	5件	2件	◎
南部第1	5件	29件	1件	○
南部第2	14件	5件	2件	○

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立からの社会参加には支援に長期間を有するが、本人の強みを生かした社会参加となるよう、息の長い伴走支援を実施されている。 ・不足している地域資源（通いの場の不足、有償ボランティア、受診同行等）を把握することができる。 ・地域関係者と連携、協働し、新たな社会資源を創出できた地区もある。
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不足した社会資源について、関係機関と連携しながら、社会資源の創出に向け取組が必要である。 ・「何に困っているか」だけでなく、「地域にどんな資源・強みがあるか」に着目する視点を持つ必要がある。
----	---